

# 東北地方 1か月予報

(5月8日から6月7日までの天候見通し)

平成16年5月7日  
仙台管区気象台発表

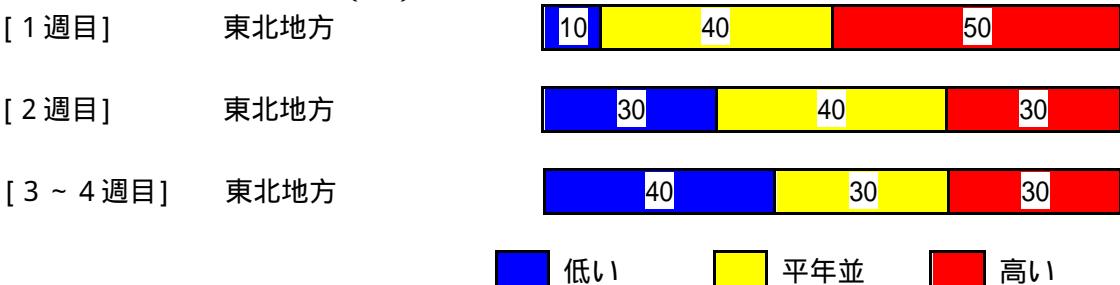
## <予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。  
天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響を受ける時期があるでしょう。おそ霜のおりる恐れがあります。  
向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並が多い、日照時間は平年並でしょう。  
週別の気温は、1週目は高い、2週目は平年並、3～4週目は低いでしょう。

## <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



## <気温経過の各階級の確率(%)>



## <予報の対象期間>

1か月 : 5月 8日(土)～ 6月 7日(月)  
1週目 : 5月 8日(土)～ 5月 14日(金)  
2週目 : 5月 15日(土)～ 5月 21日(金)  
3～4週目 : 5月 22日(土)～ 6月 4日(金)

## <次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は5月14日  
3か月予報:5月25日(火) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温( )	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温( )		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	14.6	150.2	195.7	13.1	14.0	15.3
新庄	15.4	97.5	184.7	13.5	14.5	16.3
若松	16.6	76.6	200.1	14.8	15.7	17.5
深浦	14.0	99.7	203.1	12.4	13.2	14.8
青森	14.1	75.4	211.8	12.6	13.4	14.8
むつ	13.0	90.9	206.1	11.6	12.4	13.7
八戸	13.9	86.1	207.0	12.6	13.3	14.5
秋田	15.3	111.4	198.9	13.5	14.4	16.2
盛岡	15.0	97.4	194.5	13.2	14.1	15.8
宮古	13.8	98.0	188.4	12.7	13.3	14.4
酒田	16.0	103.6	204.7	14.2	15.1	16.9
山形	16.6	79.7	203.2	14.8	15.7	17.4
仙台	15.8	105.4	193.6	14.4	15.1	16.5
石巻	14.9	94.2	203.0	13.4	14.2	15.7
福島	17.5	85.9	192.9	16.0	16.8	18.2
白河	15.8	120.9	184.4	14.3	15.0	16.6
小名浜	15.9	138.3	197.0	14.6	15.3	16.5

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差( )	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.3~+0.5	85~111	96~107
東北日本海側	-0.4~+0.4	82~113	96~106
東北太平洋側	-0.3~+0.4	82~110	97~108

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.4~+0.7	-0.4~+0.6	-0.5~+0.4
東北日本海側	-0.4~+0.7	-0.5~+0.6	-0.5~+0.4
東北太平洋側	-0.4~+0.7	-0.4~+0.7	-0.5~+0.4

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1よりも多い(少ない)ことを意味します。

# 東北地方 1か月予報解説資料

平成16年5月7日 仙台管区気象台

## 1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(5月8日~6月7日) :

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響を受ける時期があるでしょう。おそ霜のおりる恐れがあります。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(5月8日~5月14日) :

明後日(9日)から10日にかけて気圧の谷の影響で曇りや雨となりますが、その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

2週目(5月15日~5月21日) :

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響を一時受けるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(5月22日~6月4日) :

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響を受ける時期があるでしょう。

平均気温は低いでしょう。

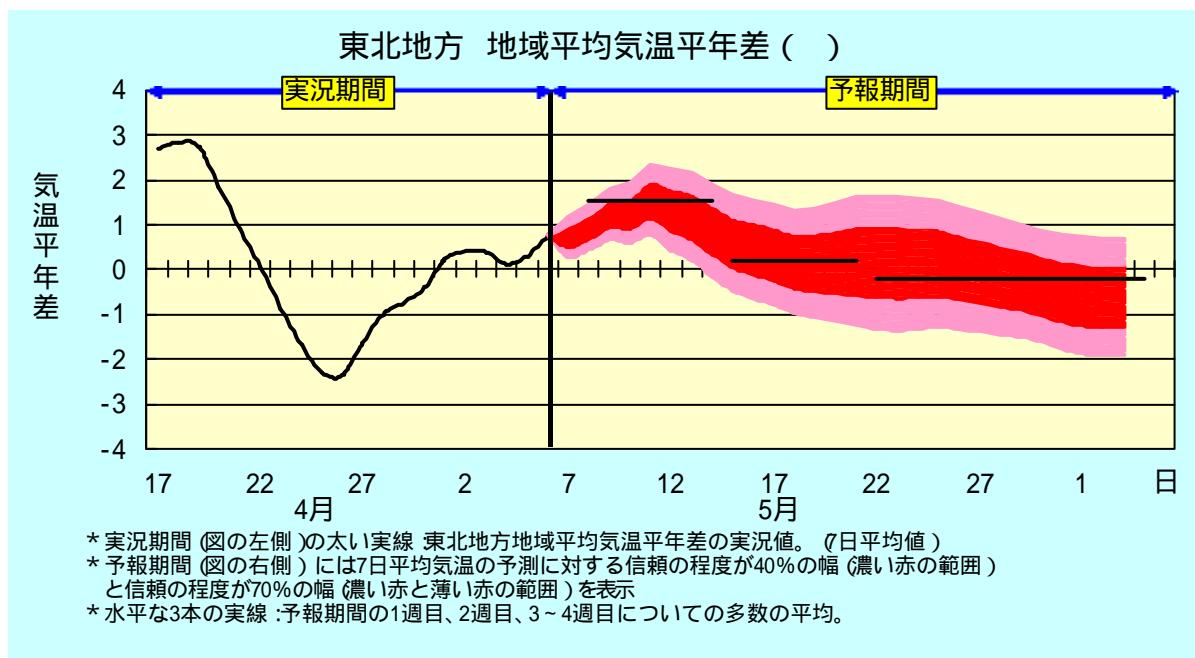
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	16.2日	4.1日	3.7日	8.4日
東北太平洋側	15.8日	4.1日	3.8日	7.9日

## 2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「高い」、2週目、3~4週目共に「平年並」と予測している。予報は、その他の資料から3~4週目を「低い」とする他は数値予報どおりとする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

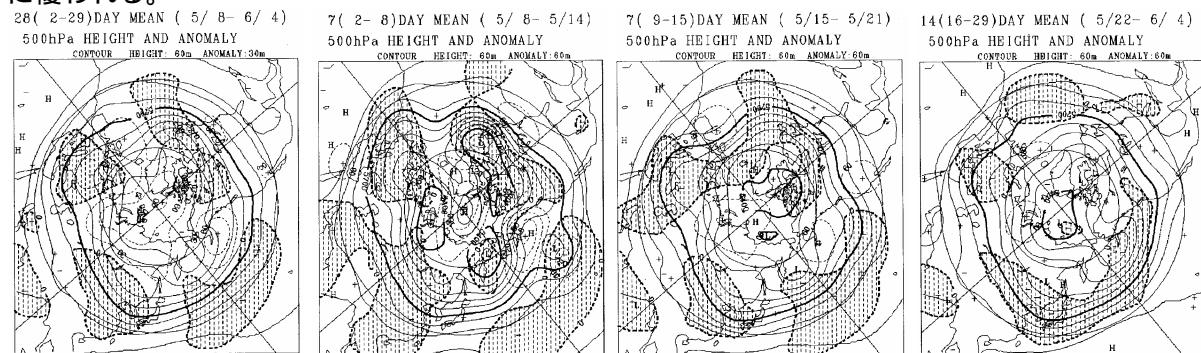


### 3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

#### 500hPa 高度と偏差：

月平均では、高緯度は正偏差に覆われ、負偏差は中緯度帯に広がる。極東域では、大陸から西日本にかけてと日本のはるか東海上が負偏差となるが、東日本以東は正偏差に覆われる。日本の西が気圧の谷（西谷）となるため低気圧や前線の影響を受け易く、また、オホーツク海には地上のオホーツク海高気圧に対応する気圧の尾根が予想される。

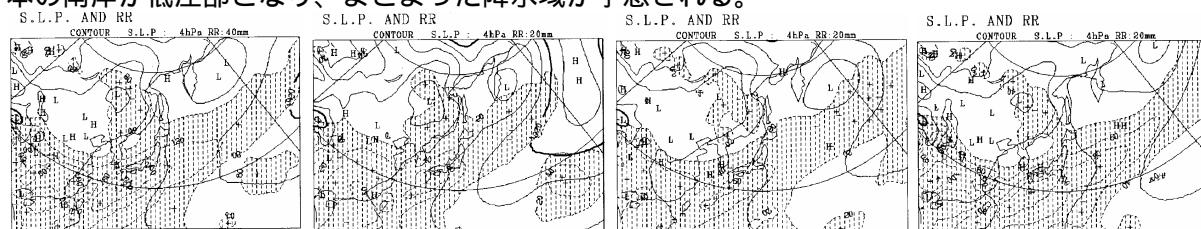
週別に見ると、1週目は日本付近が正偏差に覆われる。2週目以降は、月平均と同様に西谷で、オホーツク海には気圧の尾根が予想される。ただし、3~4週目は大陸から日本付近が広く負偏差に覆われる。



#### 地上気圧と降水量：

月平均では、日本の南に高気圧が張り出しが、日本の南岸に低圧部が予想される。また、中国東北区やアリューシャン付近は低気圧だが、オホーツク海には高気圧が予想される。ただし、日本付近の等圧線の間隔は広く、天気は数日の周期で変化する。日本付近は広く降水域に覆われ、まとまった降水域は日本の南岸を中心に予想される。

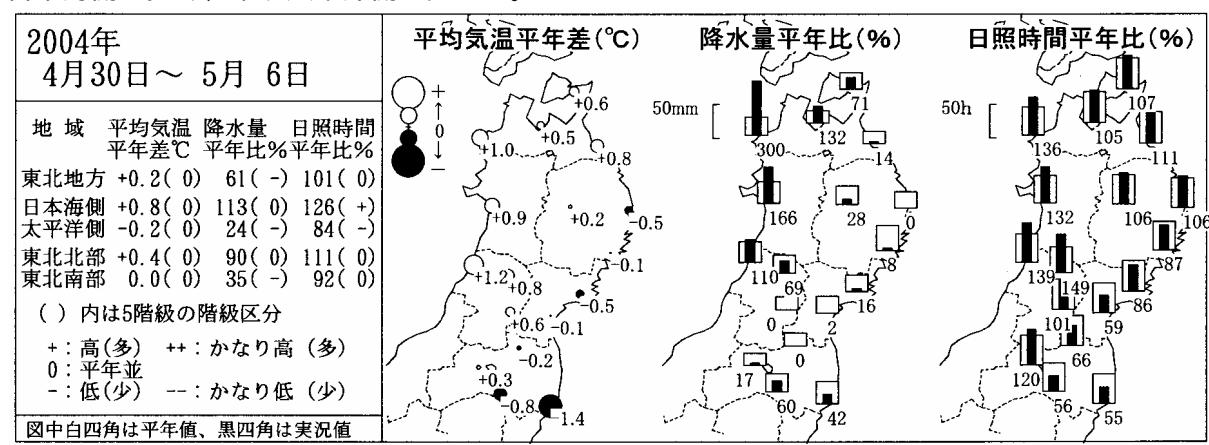
週別に見ると、1週目は日本の南東海上の高気圧に覆われる。2週目以降は、月平均と同様に日本の南岸が低圧部となり、まとまった降水域が予想される。



### 4. 最近1週間（4月30日～5月6日）の天候の経過

この期間、前半は高気圧に覆われ概ね晴れたが、3~4日は日本海を北東に進んだ低気圧や前線の影響で曇りや雨となり、秋田県では大雨により土砂崩れが発生した。低気圧の通過後も前線が日本の南海上に残ったため、東北太平洋側は曇りや雨となったが、東北日本海側は概ね晴れた。

平均気温は平年並。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)